

今週のみことば

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」

(イザヤ書42章1～9節)

「見よ。わたしのささえるわたしのしもべ、わたしの心の喜ぶわたしが選んだ者。わたしは彼の上にわたしの霊を授け、彼は国々に公義をもたらす。」

(42:1)

(ヨハネの福音書1章29節～34節)

「その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊。』」(1:29)

今日のメッセージ要旨

◎三人の博士たちは遠路「ユダヤ人の王としてお生まれになった」イエス様を礼拝するためにはるばる旅を続けたのです。礼拝する者の態度を教えられたい。

◎イザヤ書42章を通して苦難のしもべの預言はイエス・キリストを通して成就したのです。ヨハネの福音書1章で、バプテスマのヨハネはイエス様のことを「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」(29)、「私より先におられた」(30)、「聖霊によってバプテスマを授ける方」(33)、「神の子である」(34)と証言しております。バプテスマのヨハネは「イエスの先駆者」であり、同時に「イエスの証言者」であるのです。これはまた弟子たちの理想像でもあるのです。洗礼者ヨハネに「あなたはどなたですか」と質問し、「キリストでもなく、エリヤでもなく、預言者でもない」のになぜバプテスマを授けているのかとの問いにも、自分はいくまでも「荒野で叫んでいる声」であって、「あなたがたの中に、あなたがたの知らない方が立っておられます」と語っているのです。

◎バプテスマのヨハネがイエス様のことを「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と証言しましたが、これは出エジプト記12章を背景としております。昔イスラエルの民がエジプトで奴隷であった時、神様はモーセを立てて解放の業を行われました。その時、神様はイスラエルの民に「小羊」を屠り、家の二本の柱と鴨居に血を塗ることを命じられました。「その夜、わたしはエジプトの地を巡り、人をはじめ、家畜に至るまで、エジプトの地のすべての初子を打ち、また、エジプトのすべての神々にさばきを下そう。わたしは主である。あなたがたのいる家々の血は、あなたがたのためにしるしとなる。わたしはその血を見て、あなたがたの所を通り越そう。わたしがエジプトの地を打つとき、あなたがたには滅びのわざわいは起こらない。この日は、あなたがたにとって記念すべき日となる。あなたがたはこれを主への祭りとして祝い、代々守るべき永遠のおきてとしてこれを祝わなければならない。」(12-14)。これは神様がイエス・キリストを通して行われた救済の業の雛形であり、それはイエス・キリストの十字架の死と復活において成就したのです。その恵みに与っている私たちはこの御方の証言者なのです。主を証ししよう。